

# 能登半島地震を踏まえた自主検討結果（1/2）

- 能登半島地震からの教訓について、自主的な検討および電力大における検討の結果、変圧器の運用、情報発信に係る対応等に課題があることを抽出した。
- 得られた知見や教訓を自分ごとと捉え、自発的に対応を検討、発電所の安全性向上に努めている。

| 志賀原子力発電所で発生した事象 |  | 検討結果（○対応不要または対応済、△抽出した課題）   |
|-----------------|--|---|
| 発電設備            | <b>【変圧器】</b><br>・絶縁油が漏えいし放圧板が動作<br>・発電所前面海面に油膜確認<br>・変圧器内部の損傷により長期復旧不可 | ○放圧版動作時、変圧器早期復旧のための予備品を確保している。<br>○油漏えい対策として変圧器に堰を設け、堰内に防水シートを敷設している。<br>△⇒○ 絶縁油漏えい時の変圧器停止手順を整備した。  |
|                 | <b>【非常用ディーゼル発電機（D/G）】</b><br>・試運転時、電源構成・並列時の発電機電圧の影響によりD/Gが自動停止した。     | ○電源構成を確認し、志賀と同事象が発生しないことを確認した。<br>○発電機電圧の確認、操作タイミングを手順で明確にしていることを確認した。  |
|                 | <b>【使用済燃料貯蔵プール（SFP）】</b><br>・SFP内で、原子炉冷却材再循環ポンプ（RIP）検査装置の一部が落下         | ○SFP内の現場確認を実施し、落下の可能性がある装置等がないことを確認した。  |
|                 | <b>【制御棒駆動機構（CRD）ハウジング】</b><br>・CRDハウジング支持金具の構成部品の一部が落下                 | ○支持金具の構造を確認し、志賀とは機器のメーカー・構造が異なり同事象が発生しないことを確認した。しかしながら、プラント起動時に構成部品の設置状況に問題が無いことを点検する等の対応を検討する。   |
| 情報発信            | ・複数の誤情報発信、訂正の発生<br>・HP公表の遅れ<br>・本店による原子力規制庁緊急時対応センター（ERC）対応の遅れ、情報の伝達不足 | ○体制、過去の訓練結果の確認から、情報間違いの低減、誤情報の速やかな訂正が出来ることを確認した。<br>△⇒○浜岡当直者が、初動時、要員が参集していない状態で正確な対応が出来るよう、教育・訓練を開始した。<br>△⇒○志賀発電所の反省点を反映した現場状況の情報収集に係る電事連ガイドを確認し、反映が必要な事項が無い事を確認した。<br>○本店当直者が速やかに体制確立し、情報伝達できる体制を整えていることを確認。<br>△⇒○本店当直者が正確に情報発信できる力量向上訓練、および本店要員参集の実効性を高める訓練を開始した。 |

# 能登半島地震を踏まえた自主検討結果（2/2）

| 志賀原子力発電所で発生した事象 |                       | 検討結果（○対応不要または対応済、△抽出した課題）  |
|-----------------|-----------------------|--|
| その他             | 発電所要員参集               | ○立地条件、参集ルート、過去の呼出訓練の結果を確認し、初動の要員参集は良好と評価した。更に、主要な参集ルートをウォークダウンし、著しいリスクが無い事を確認した。                               |
|                 | モニタリングポストのデータ欠測       | ○欠測時の代替機器が確保されていること、および運用を確認した。  |
|                 | 最大4mの地盤隆起が発生          | ○海水取水レベルを確認し、4m隆起しても海水取水可能なことを確認した。<br>○万が一海水取水不可の場合においても、代替となる水源、SFPへの注水手段があることを確認した。再稼働までに実動訓練を実施し、有効性を確認する。 |
|                 | オフサイト防災における道路寸断、家屋倒壊等 | ○国、自治体の検討状況を注視し、連携していく。  |